

【安全講話】

皆様新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い致します。

まず、ホンジュラス国内の治安情勢について、2020年中の正式な数字は発表を待っているところではありますが、殺人による死亡者数は約3,400人で、昨年よりおよそ600人の減少と報じられています。2020年は、世界中が新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けましたが、ホンジュラスも例外ではなく、殺人による死亡者数減少の要因として、昨年春から実施されている外出禁止令の影響が大きいと見られているようです。一方、昨年はこの外出禁止令や経済活動に対する規制など、感染拡大防止のための政策に反対する抗議活動が、国内各地で散発しました。

昨年ある機関が実施した、ホンジュラス人の治安に関する意識調査の中で、「仕事を求めながらもなかなか職に就けない人々が罪を犯すこと」につき、1から5までの5段階評価で、「認められない」の最大値を5としたとき、ホンジュラス人の平均値は3.7であった。」という調査結果がありました。一般に「治安が悪い」と考えられているホンジュラスにおいて、その主たる要因の一つは貧困であると言われていたのですが、実は「経済的困窮下においてさえも、犯罪は許されることではない。」という意識の方が、国民一般の意識として強いということがわかります。

確かに、殺人や誘拐の傾向として、発生件数は多いものの、身内や特定の組織内のトラブルに起因するものが多く、近年外国人を被害者とする事件は、あまり報告されていないことは事実です。しかし一方で、例えば、外出禁止令の発令により需要が高まっている、デリバリー業者を狙った強盗や、逆にデリバリー業者を装った侵入強盗が発生するなど、コロナ禍にあって、犯罪の傾向も、新しい生活様式に沿って変化しているようにも感じられます。

パンデミックにより、以前の「あたりまえ」がもはやあたりまえではなくなってしまった昨今、今まで当然に安心だと思っていた、思わぬ場所で、或いは、今まで当然に信頼できと思っていた、思わぬ人から被害を受けることがあるかもしれません。皆様にありましては引き続き、「自分の身は自分で守る」という意識のもと、日々の防犯に努めていきたいと思います。

殺人・強盗などの犯罪がクローズアップされがちなホンジュラスですが、もう一つ懸念されるのが交通事故の多さです。報道によりますと、ホンジュラス国内で、2020年は約700人、2019年は約1600人の方が交通事故で亡くなっています。ホンジュラスの人口は約960万人。例えば、人口1,300万人の東京都の、2019年の交通事故死亡者数は133人、2020年は155人です。交通事故死の定義などの違いもありますので、単純に比較は出来ませんが、人口あたりで見ると、交通事故死者数も、決して看過できない数字であることがわかります。

「だろー運転」と「かもしれない運転」という言葉をご存じでしょうか。「ここから歩行者は出てこないだろう」「前の車が急に停車することはないだろう」などと、周囲の状況を自分に都合良く考えて運転することを「だろー運転」と言います。対して「もしかしたら歩行者が飛び出してくるかもしれない。」「対向車が左折を譲ってくれても、脇からオートバイが通過してきて衝突するかもしれない。」と、常に起こりうる危険を予測して運転することを「かもしれない運転」と言います。多くの交通事故は、起こりうる危険を事前に予測することで防げる場合があります。車を運転される際は、ぜひこの「かもしれない運転」を心がけていただき、交通事故を回避する心がけをお願いいたします。

また、この危険回避のための「かもしれない」をぜひ普段の生活の中でも生かしていただきたいと思います。すべて疑ってかかるというと語弊がありますが、例えば、後ろからオートバイが近づいてきたとき、不意に家を尋ねてくる人がいたとき、「こういうことがあるかもしれない」という起こりうる危険予測をしていただき、用心をしていただきたいのです。

ホンジュラス国内の治安情勢や生活上の注意点は、今後も領事メールで発信していきたいと考えていますので、目を通していただければ幸いです。

皆様にとって、この令和3年が素晴らしい年になりますよう、祈念しております。

令和3年 1月23日

在ホンジュラス日本国大使館 領事班